

北方の資源開発と環境

北方・インディアン省
北方パイプライン局

E・R・ワイツク
L・C・N・バージェス
D・グリーンウッド

カナダ北方。南部十州の北、北緯六十度の北に位置する四百万平方キロのこの広大な陸地は、ユーコン・アラスカ境界線からバフィン島東岸まで三千キロ、北緯六十度線からエルズミア島の北端まで二千五百キロもある。ユーコン・アラスカ境界は、東京とバフィン島東南のフロビッシャー湾のほとんど中間にあたる。

カナダ北方の人口はおよそ六万。その三分の一は北西準州の首都イエローナイフとユーコン準州の首都ホワイトホースに、残り三分の二が大河の沿岸や海辺の村に、ちらばって住んでいる。

気候は大陸性で、マイナス六二度（摂氏）からプラス三六度まで上下する。霜が降りないのは七月と八月の二か月間だけ、と厳しい。雨量は、山の多いユーコン準州でさえ少ない。大体どこでも、年間千五百ミリも降る東京の四分の一以下だ。しかもその半分は雪である。

何百、何千とある湖のうち、グレート・ベア湖とグレート・スレープ湖は、いずれも日本の瀬戸内海の二倍もある。北方の五ないし十パーセントは淡水だ。

ユーコン・アラスカ境界線から北極沿岸沿いに東側のおよそ北緯六十度にかけて、北方樹林帯の北辺をなす樹木線がのびる。そこでモミヤ樺、ポプラなどの木が、まばらに生えた背の低いエゾマツに代わる。その樹木線と北極海の間には、かん木やコケ以外には植物の生えていない広大なツンドラが横たわる。北極諸島をさらに北へ進むと、まるで砂漠のように植物が地表にはいつくばり、温かさと水分を求めて土壌に抱きついて見える。

近くなった北方

第二次世界大戦前にカナダ北方に行つた人々は、生き抜くためにその地域の条件に合わせ、また多くの場合、インディアンやエスキモアの生活風習を取入れなければならなかった。当時、北部のより厳しい地域に行く人々は、命知らずとか、勇気ある探検家と見られていたものである。そういう人々は、どこか遠いインディアンやエスキモアの村で冬を過ごすか、海路でくると、安全な港で氷に閉じ込められることになった。ずっと前に建てられた設営地もあったが、南の補給地から遠く離れ、また冬の間はほとんど完全に孤立してしまつた。

しかし、その後、交通網が発達し、北方のいろいろな地方へ手軽に行けるようになった。今、エドモントンやウイニペグ、モントリオールでジェット機に乗つ

てしまえば、北極圏の中に位置するイヌビツク、ケンブリッジ・ベイ、レゾリュートなどに二、三時間で着いてしまう。エドモントンから車で行けば、二、三日でユーコン準州の首都ホワイトホースやノースウエスト準州の首都イエローナイフに達する。今年になって、ホワイトホースからイヌビツクへも車で行けるようになった。

膨大な地下資源

現在では、南部から北方へ、北方から南部へ、いろいろな方法で物資や人を輸送できる。主な輸送機関はすべて使われている。ただ、輸送費が高いため、今でもマッケンジー川や北極海沿岸に沿って、あるいはハドソン湾の中へ、氷の張らない夏の間だけ運航する水（海）上輸送に頼っているところが大きい。

南に住むカナダ人の目で見ると、南北間の繋がりはかなり深まったようである。北方に眠っていると思われる膨大な天然資源のために、一帯はだんだんと世界経済の中に組み込まれるようになった。特に鉱業の歴史は古く、イエローナイフでは一九三〇年代の半ば以来、金鉱が掘られているし、北極圏の南二百五十キロ、マッケンジー川のノーマン・ウェルズでは、量は大きいたことはないが、一九二〇年代から石油が採取されている。

およそ十五年前から、鉱業と石油・天然ガスが重要性を増してきた。一九六四年にユーコン、ノースウエスト両準州における鉱業生産額は三千三百万ドルであったのが、一九七七年には四億六千万ドルに達した。石油・天然ガスの探掘にか

ける年間費用も、一九六六年の二千七百五十万ドルから、一九七七年には三億一千ドルに増加した。

石油・天然ガスの開発は膨大な規模に達し、北方に住むすべての人々に何らかの形で影響を与えることになった。大きな油井やガス田が発見され、大量の大型パイプラインの可能性が検討された。北方の村は、産業化の波に乗って、短期間のうちにその人口が二倍、三倍にふえたところもある。

国民総生産とか国際収支の観点からすると、これはいいことである。しかし、社会的、環境的な意味では、対価はかなり高くついたといえる。問題点をいくつか見てみよう。

開発の社会的影響

北方開発の社会的影響を検討する場合、産業や政府活動の拡大に伴って北方にやってきた人々と、北方を故郷とする人々、すなわちインディアンやメティス（インディアンと白人の混血、正確にはフランス系白人とインディアンの混血）とを区別する必要がある。北方にやってきた



イヌビツクの夜明け。ここにも近代的な住宅が建ち並んでいる。